

### Ⅲ. 資料集

平成29年度終了課題 平成27年度～平成29年度研究成果の概要  
(平成30年1月26日長寿科学政策及び認知症政策研究成果発表会)

研究課題名 ポピュレーションアプローチによる認知症予防のための社会参加支援の  
地域介入研究

課題番号 H27-認知症-一般-001

研究代表者 星城大学リハビリテーション学部 竹田徳則

#### 1. 平成29年度の研究成果

【目的】認知症予防を推進する社会参加支援を戦略的に進めるための「通いの場」(以下、サロン)について、1) 多市町サロン参加者割合及び要介護リスク該当者割合の検討、2) サロンプログラムの違いによる参加者の生活機能変化の探索的検討、3) 地域診断支援(サロンベンチマーク)システムの構築を行うことを目的とした。

【方法】1) 多市町サロン参加者割合及び要介護リスク該当者割合の検討では、2016年度実施日本老年学的評価研究(JAGES)調査データと2015年度サロン調査協力7市町における厚生労働省公開データを用いた分析、2) サロン参加者における生活機能変化では、愛知県武豊町8サロンのプログラムの違いによる2010年新規参加者の2012年における老研式活動能力指標(請求書の支払い・預貯金・年金の書類)変化の分析、3) 2016年度試作の地域診断支援システムの改良を行った。

【結果】1) 多市町調査回答者におけるサロン参加者割合は、①全国38市町では、平均15.7%、最小10.1%から最大28.8%でその差は2.9倍、地域類型別では、都市的地域(8市)12.0%から18.3%、郊外的地域(11市町)12.7%から21.1%、農村的地域(19市町)10.1%から28.8%でそれぞれ1.5倍、1.7倍、2.9倍の差があった。②サロン参加者の要介護リスク該当者割合を算出した結果、7市町の65歳以上高齢者に占める割合は、生活機能低下、運動機能低下、低栄養、口腔機能のいずれかに該当が平均1.4%、最小0.2%から最大3.4%で全国の2015年度二次予防事業参加者割合の0.8%を上回っている可能性を確認した。また、要介護リスク該当者割合が高い市町の特徴は、サロン参加理由が友人・知人が誘ってくれるが多い傾向を明らかにした。2) 愛知県武豊町データを用いたサロン新規参加者における生活機能変化では、プログラムに脳トレーニングがあるサロンへの参加者では悪化はなかった。3) 2016年度試作の地域診断支援システムに改良を加え、認知症発症関連要因を踏まえた具体的な評価指標の抽出を行い、サロン毎あるいは地域毎に視覚化可能な指標リストの構築を図った。その結果、サロンを活用した介護予防・認知症予防事業の分析とサロン間及び市町村間の比較がこれまでよりも可能なシステムの構築に至った。

【結論】JAGES2016年度調査参加38市町の回答者のサロン参加者割合は、平均15.7%で、厚生労働省が目標値に示している65歳以上高齢者サロン参加率の10%を上回っている市町が多い可能性が示唆された。このうち7市町のサロン参加者における要介護リスク該当者割合は、全国の0.8%に対し1.4%で多く、ポピュレーションアプローチ

によるサロンを活用した社会参加支援とそこへの継続参加によって、認知症発症予防につながるプロセスの一端を明らかにした。

## 2. 前年度までの研究成果

### 1) 縦断データを用いた分析

①2007年から開所した愛知県武豊町のサロン参加群 152名と非参加群 1,885名を2014年までの7年間追跡した結果、認知症発症の確率はオッズ比で非参加群 1.00に対して参加群は 0.73 で3割低いことを操作変数法にて明らかにした。②愛知県知多圏域6市町在住高齢者 6,796名の2003年から2008年の5年間追跡に基づく認知症発症リスクスコアとして、13項目15点満点（7点で13%、10点以上で60%が発症）からなる高齢者本人や家族がチェック可能な指標を開発し公開した。③社会参加の有無と物忘れの有無では、3年間社会参加なしに比べ社会参加ありは4年後の物忘れの発生を半減させる可能性を明らかにした。④地域診断として2007年と2010年の2時点におけるサロン参加とサロンまでの距離別でみたソーシャル・キャピタルの助け合いの指標では、2007年750m以内圏では高く、それ以降750m圏になった地域や2時点とも750m圏外の地域では変化がなく、良好な変化には長い期間を要すことを確認した。

### 2) 横断データを用いた分析

①JAGES参加8市町サロン155箇所の運営母体は社会福祉協議会が半数、開催会場は公民館7割、開催頻度は月1回が4割と複数回5割、運営にかかわる1回あたりボランティア数は平均1箇所10.5名、参加者は21.3名、プログラムでは健康体操、お茶おしゃべり、室内ゲームが多い傾向などを明らかにした。②7市町サロン参加者2,983名のサロンに参加する前に比べた参加後の認知として、人との交流が増えた、気持ちが明るくなった、将来の楽しみが増えたなどの心理社会面の良好な変化が7割と多いことを確認した。③同対象者ではサロン参加後に新たな運動を始めたが5割、そのうち2つ以上が半数でサロンへの参加に伴う波及効果があることなどを示した。

## 3. 研究成果の意義及び今後の展開

根拠に基づくポピュレーションアプローチによる認知症予防のための社会参加支援の地域介入に向けて、サロンを活用した認知症予防効果とサロンの運営や参加者の実態と参加に伴う波及効果を明らかにした。また、認知症予防に資する地域診断システムの開発と実用化を図った。本研究を発展させる計画を予定しており該当助成公募が期待される。

## 4. 倫理面への配慮

既存データ及び新規データ収集に関しては、日本福祉大学と千葉大学及び星城大学の「人を対象とする研究」に関する研究倫理委員会の審査・承認を受けて行った。なお、各保険者と研究協定を結び、そこで定められた個人情報取扱特記事項を遵守した。

## 5. 本研究に関連した発表論文等

1) 竹田徳則, 近藤克則, 平井寛, 他: 認知症を伴う要介護認定発生のリスクスコアの開発: 5年間のAGESコホート研究. 日本認知症予防学会誌4: 25-35, 2016.

- 2) Hikichi H, Kondo K, Takeda T, Kawachi, I : Social interaction and cognitive decline: Results of 7-years community intervention. *Alzheimer's & Dementia: Translational Research & Clinical Interventions* 3 (1):23-32, 2017.
- 3) 竹田徳則 : 地域在住高齢者の心理社会面に着目した認知症予防－武豊プロジェクト. *MEDICAL REHABILITATION* 206:45-50, 2017.
- 4) Seungwon Jeong, Yusuke Inoue, Katsunori Kondo, Yasuhiro Miyaguni, Eisaku Okada, Tokunori Takeda, Toshiyuki Ojima: Correlations between forgetfulness and social participation: region-level diagnosing indicator. *International Journal of Environmental Research and Public Health* (in press) .
- 5) 竹田徳則, 平井 寛, 近藤克則, 村田千代栄, 尾島俊之 : 認知症になりやすいまちはあるか?－チェックリストを用いた 30 市町村比較. 第 6 回日本認知症予防学会学術集会. 平成 28 年 9 月 23-25 日. 仙台市.
- 6) 竹田徳則, 平井寛, 近藤克則, 加藤清人, 鄭丞媛 : 通いの場は何名程度のボランティアで運営されているか?－JAGESプロジェクト参加8市町の分析. 第75回日本公衆衛生学会総会. 2016年10月26～28日, 大阪市.
- 7) 加藤清人, 竹田徳則, 近藤克則, 平井寛, 鄭丞媛 : 通いの場の参加者における要介護リスク者割合の分析 - JAGESプロジェクト -, 第75回日本公衆衛生学会総会, 2016年10月26-28日, 大阪市.
- 8) 加藤清人, 竹田徳則, 林尊弘, 近藤克則, 平井寛, 鄭丞媛 : 通いの場参加による新たに始めた運動の有無と心理社会面との関連－JAGESプロジェクト.－第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31-11月2日, 鹿児島市. 5) 林尊弘, 竹田徳則, 加藤清人, 近藤克則, 平井寛, 鄭丞媛 : 通いの場参加者の参加後の社会参加状況と主観的健康感との関連 : JAGES プロジェクト.－第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31-11月2日, 鹿児島市.
- 9) 竹田徳則, 加藤清人, 近藤克則, 平井寛, 鄭丞媛 : 通いの場で実施されているプログラムの傾向－JAGES プロジェクト参加8 市町の分析.－第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31-11月2日, 鹿児島市.
- 10) 林尊弘, 竹田徳則, 近藤克則, 加藤清人, 平井寛, 鄭丞媛 : 通いの場の参加者の参加後の社会参加状況と主観的健康感との関連 - JAGESプロジェクト -, 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017年10月31-11月2日. 鹿児島.

## 6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属研究機関における職名
竹田徳則	研究統括	日本福祉大学大学院博士後期課程・平成18年修了・博士(社会福祉学)・社会福祉学	星城大学リハビリテーション学部, 健康支援学	教授
近藤克則	地域介入研究	千葉大学・昭和58年卒・医学博士・博士(社会福祉学)	千葉大学予防医学センター, 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター, 予防医学, 長寿科学	教授
平井寛	縦断調査分析	京都大学大学院・平成14年修了・博士(農学)・地域計画学	山梨大学大学院総合研究部生命環境学域, 地域計画学	准教授
加藤清人	横断調査分析	日本福祉大学大学院修士課程・平成25年修了・修士(医療・福祉マネジメント)・医療福祉マネジメント	平成医療短期大学リハビリテーション学科, 老年期作業療法学	教授
鄭丞媛	縦断調査分析	日本福祉大学大学院博士後期課程・平成20年修了・博士(経営開発)・医療福祉マネジメント	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター, 老年社会学研究部, 老年社会科学	研究員